

## RoootSの導入計画の見直しについて

2023.11 最高裁事務総局

本年7月にRoootSの導入計画の見直しについてお知らせしましたが、今後の導入計画について、改めて、以下のとおりお知らせします。

### 今回の見直しのポイント

- RoootSの先行導入の時期を令和6年1月までとお知らせしていましたが、開発の進捗状況を踏まえ、これを再度延期します。先行導入等の具体的な時期は、令和6年5月以降となる見込みですが、進捗状況を踏まえ、改めてお知らせします。

### 本年6月の導入計画の見直し後の経過

- 実務の安定的運用のためのシステムの品質確保を最も重視し、本年6月に導入計画を見直し、お伝えした態勢強化等の対策は全て実施した上で、受注業者に対し全てのテスト工程のやり直しを指示し、最高裁と工程監理業者とで毎日監理してきました。単体テスト（機能・画面ごとのテスト）及び結合テスト（機能間・画面間のテスト）を再実施し、これらのテスト工程については、概ね順調に進んできました。
- 本年8月頃より、再度、総合テスト（受注業者が開発工程の仕上げとして行う総合的なテスト）を実施し始めたところ、同月末頃から、テストが予定どおり進まないケースが見られるようになりました。具体的には、総合テストのシナリオ（業務に沿ったテストケース）の実施・完了を阻害するバグが多く発生し、そのバグの解消に時間を要したり、バグを解消してシナリオを進めると更に別のバグが発生してシナリオの実施が中断したりし、総合テスト全体の進捗状況が悪化しました。
- 総合テストは本年9月末に完了する予定でしたが、現在まで完了せず、その後の最高裁による受入テストを実施するに至っていません。システムの品質を確保し、その上で、運用開始までの各庁における準備や習熟に十分な時間を確保する観点から、令和6年1月までの先行導入は断念し、先行導入時期を延伸すべきものと判断しました。



## RoootSの導入計画の見直しについて

### 再遅延の原因と現在の対策

- 再度の遅延の主な原因が、受注業者によるバグの解消に時間がかかっていることは前述のとおりですが、受注業者において、裁判所の業務を踏まえてシステム全体の仕様や整合性をチェックできる者が乏しいことが背景にあることが判明しています。
- この課題に対しては、受注業者の人的態勢の強化を求めてきましたが、開発要員の単なる増員では解決できないこともあり、最高裁職員が直接助言を行うことはもとより、受注業者との更に緊密なコミュニケーションを図るため、最高裁職員を受注業者の開発現場に出張させるといった対策も行っており、少しずつではあるもののシステムの品質を積み上げていくことができつつあります。
- 引き続き、品質の確保を最も重視し、各庁における準備や習熟に十分な時間を確保する方針で、開発を進めていきます。

### 今後の予定

- 近日中に、今回の導入計画の見直しについて、職員の皆様に直接、ご説明する機会を設けるとともに、その時点におけるRoootSの動作等を、デモ画面でお示しする予定です。
- なお、RoootSの開発に続くTreeeSの開発については、現在基本設計段階にあります。既にお知らせしているとおり、以上のようなRoootS開発での経験を踏まえ、遅延リスクをできる限り低減させるため、運用開始当初に必ず盛り込むべきものとその後の改修等に対応すべきものなどを具体的に選別するなど検討を進めていますが、上記の機会に、TreeeSの開発状況についても、システム概要スライド第3版のポイントを含め、できる限りお知らせする予定です。
- 民事訴訟手続の全面デジタル化を図る改正法施行後の実務の安定的運用に向けて、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。